

巻頭言

様々な用途でデータ活用のための情報処理環境を提供する、データ活用社会創成プラットフォームの構想が進んでおり、情報基盤センターでも協力しています。データの活用は、これからの社会において競争力を維持していくために必須であり、だれもが有効にデータを活用できる環境を整えることが重要です。データ活用社会創成プラットフォームは、データの活用のための環境を自ら整備することが難しい事業者などに、速やかにデータを処理する環境を提供することで、「データ活用」を日本全体にあまねく広げていくことを目指しています。

さて、このようなデータの活用が進むことが社会にどのような影響を及ぼすのかを考えてみましょう。データの活用は、生産性の向上につながります。近年、AIにより職がなくなるといった話が出て騒がれていますが、このような現象は生産性が向上すると避けられないことであるともいえます。

歴史をひも解き紀元前にさかのぼると、鉄器の出現により農業の生産性が大きく向上したとされています。これは、すべての人が常に生産に携わる必要がなくなることを意味し、階級社会と国家の成立、さらには集落間、部族間の争いへとつながっていききました。18世紀末にイギリスではじまった産業革命（第一次産業革命）も、社会に大変革をもたらした生産性が飛躍的に向上しましたが、一方で資本家層と労働者層の大きな貧富の格差をもたらしました。

しかし、このような変革を避けて通ることはできません。生産性の向上により得られた「余力」を何に使うのか、が重要です。データの活用は第四次産業革命とも呼ばれます。データの活用により得られる生産性の向上をどう人々の幸せにつなげていくのかが問われています。過去の生産性向上が何をもたらしたかを今一度分析し、どのような社会が形成されていくことが望ましいのかを常に考えつつ行動していくことが必要と考えています。

(ネットワーク研究部門長 工藤 知宏)